

海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

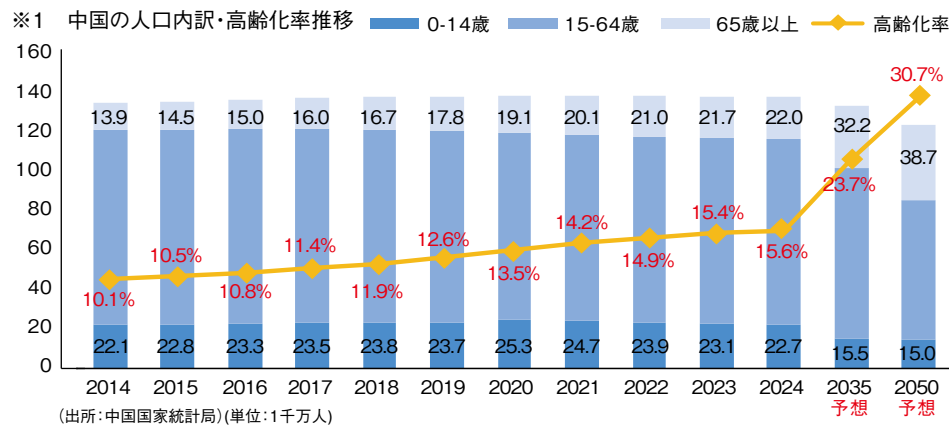
FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。

今回、上海駐在員事務所の堤所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

現地の状況について
教えてください

A 中国では高齢化が急速に進行しており、2024年の中国の高齢化率は15.6%と10年前の10.1%から大幅に増加しています。中国国家统计局は2035年の高齢化率は23.7%に達し超高齢化社会（65歳以上の割合が人口の21%を超えた社会）に入ると予想しており（※1）、中国政府は「高齢化への積極的対応に関する国家戦略の実施」を政策に掲げ、高齢者ケアの促進、介護保険の整備などを推進しています。このような状況を背景に、中国における高齢者サービス産業の市場規模も年々増加傾向にあり、2023年の市場規模は12兆円（約252兆円）にまで達しており、2027年には21.1兆円（約443兆円）に拡大すると予想されています（※2）。この中国の巨大な高齢者サービス産業のマーケットに、高齢化先進国である日本の介護事業者も参入してきま



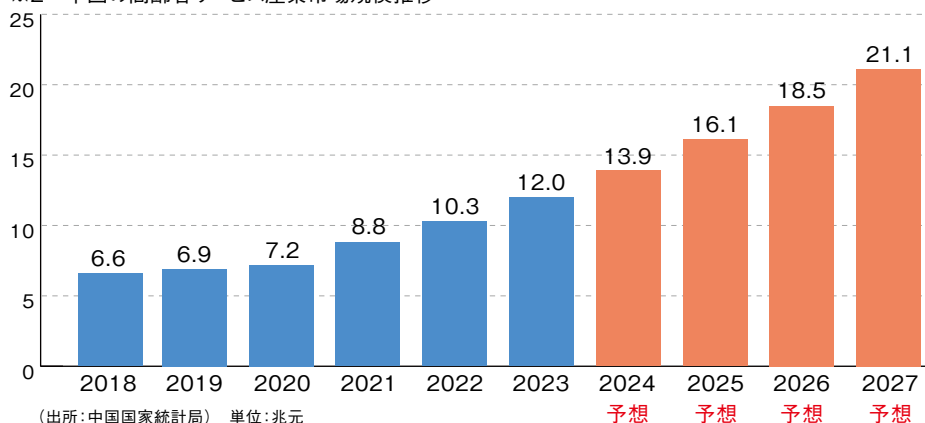
したが、社会保障制度や介護に対する価値観の違いなどの障壁により、多くの日系事業者は苦戦を強いられています。（一円＝21円で算出）

Question 2

A 施設運営等の介護事業全般を展開している現地企業の方にお話を伺いました。

現地企業の声を聞かせて下さい

※2 中国の高齢者サービス産業市場規模推移



「現地企業の声」

弊社は上海を中心に介護用品販売・施設運営など介護関連事業を営む現地企業で、私自身は日本で介護施設運営に携わった経験があります。中国と日本では介護業界の社会環境や介護に対する考え方などにおいて様々な違いがあります。例えば、中国では日本ほど介護保険のような社会保険制度が充実していないため、介護サービスの費用の大半は利用者負担となります。また、中国では介護サービスは必要最低限の身辺の世話をしてもらうものという意識が強く、日本の身辺の世話のみではなく介護者のQOL（生活の質）向上のため自立支援を前提とした質の高い介護サービスは、価格の高さもあり利用者への浸透はこれからだと思っています。これまで、中国には多くの日系の介護事業者が進出してきていますが、このような中国と日本の違いが障壁となり、多くの日系事業者は苦戦が続いています。但し、これから中国の高齢化社会

が急速に進むにつれて、社会保険制度は手厚くなり、介護サービスに求めるニーズも変化していくと思います。私は、日系事業者の進出により日本の質の高い介護サービスが現地に浸透し、中国の高齢化社会がより豊かになることを期待しています。

Question 3

海外ビジネスを目指す お客さまへメッセージを 願います

A 海外マーケットに参入する際には正確なニーズ把握が重要です。例えば、中国から撤退した日系の介護事業者が数多くある一方で、認知症ケアやリハビリなど専門性が高く日本の事業者の強みを活かした分野に特化することにより、現地の事業者と差別化し事業を拡大している介護事業者もあります。認知症の進行抑制やリハビリによる機能改善は数値で改善が確認できるため、日本の自立支援型の介護が現地で受け入れられるきっかけとなっており、日本式の介護サービスを取り入れる現地事業者もみられるなど変化の兆しもあります。中国では様々な高齢者サービス産業のイベントが開催されていますので、まずはこのようなイベントに参加し、現地の状況やニーズを把握することも有効な一つの選択肢だと思います（※3）。上海駐在員事務所では、現地で開催される様々な産業イベントのご案内なども対応させていただきますので、ご興味ございましたらお取引店にご相談ください。

※3 高齢者サービス産業イベントの様子



所長の
ちょっとひと息

現地のおすすめや
過ごし方を
ご紹介ください

上海は世界有数の経済都市ですが、郊外には遺跡や水郷古鎮など多くの史跡が残されています。例えば、広富林文遺跡は約5,000年前の遺跡とされており、併設されている「広富林文化展示館」は水中博物館として有名です（※4）。水郷古鎮とは「水辺にある古い町」という意味で、上海近郊には個性的な水郷古鎮がいくつもあり、水路の周りに立ち並ぶ古い建物はレトロでノスタルジックな風景です。これらの史跡の大半は地下鉄でアクセスでき半日での観光も可能ですので、上海にお越しの際には、史跡を巡り中国悠久の歴史を楽しませてはいかがでしょうか。

※4 広富林遺跡

